

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

美術 石井強司

照明 河崎浩

選曲 堀沢広幸

音響効果 石井隆

衣裳 宮岡増枝

演出助手 清原達之

舞台監督 松橋秀幸

製作 広瀬公乃

製作助手 白木匡子

【出演】

青木力弥

藤井美恵子

永田江里

藤代梓

傍島ひとみ

津曲海七斗

こんなにも知らなかった
ということ
初めて知った



あの夏の絵

福山啓子 作・演出

〈出演〉

CAST



青木力弥



藤井美恵子



永田江里



藤代梓



傍島ひとみ



津曲海七斗

被爆から70年。
記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、
それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの
2015年夏の物語。
同年12月に初演し客席を
感動の渦に巻き込んだ作品が、待望の全国公演に!

被爆者の集会で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思いました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後現地へ何度も伺う中で知ったのは、半年をかけて被爆者から被爆前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き合う高校生たちの姿でした。そうして「絵を描いたこと」を語ることで高校生たちがみずから新たな語り部となってきました。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたらと願っています。

福山啓子

(ふくやまけいこ)

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。文芸演出部所属。2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当、児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。他に「野球部員、舞台上立つ!」(脚本・演出)、「田畑家の行方」(演出)、「梅子とよっちゃん」(脚本)「つながりのレシビ」(脚本)。



初演の反響より

原爆くを絵であらわすなんて、すごいと思いました。私は、こんなにすごい絵をかいたことがないので、いつか実際にかいてみたいです。「平和」とはなんだろう、ということを考えられました。(横浜公演にて・12才)

戦争を体験した人が少なくなっていくこの時代に、体験した事のない私たちが今後どのようにして後世に戦争の悲惨さ、醜さ、無を伝えて行けばいいのか、私たちに課された課題だと思っています。(中学校 教員)

原爆、戦争、それらを歴史上の事実として現代の高校生につなげる。現実の絵を観て、事実の重みを感じた。東京から来た高校生の「何で知らなかったのだろう」の戸惑い。その心を受けとめ、何とか一緒に活動しようとする恵。恵のやさしさが三人の制作を支えた。世代を超えて記憶に伝える作品。若者に歴史を伝える意味と歴史を共有する意味。今こそ、若者に伝えたい内容でした。(東京公演にて・71才)



(舞台写真2枚)
撮影:V-WAVE

秋田県産・土方与志 記念 青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 関川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418

info@seinengekijo.co.jp

http://www.seinengekijo.co.jp/

12月7日(土)盛岡市キャラホール大ホール

開場 13:00 開演 13:30 <上映時間約120分>

全席自由

前売 一般 3,000 円(当日 3,500 円)・小学生~大学生 1,000 円(当日同額)

◇チケットはキャラホール、プラザおでって、カワトク、県民会館ほか盛岡市内各プレイガイド、いわて生協店舗で販売。

主催:ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会(事務局:岩手県生協連 TEL019-684-2225)

後援:岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、岩手県高等学校長協会、岩手県特別支援学校連絡協議会、岩手県高等学校PTA連合会、岩手県特別支援学校PTA連合会、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、河北新報社、岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、IBC岩手放送、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、めんこいテレビ、エフエム岩手(順不同)